

令和2年度 第1回松本市公民館運営審議会 議事録

日時 令和2年11月26日(木) 19時～20時30分

会場 中央公民館3階 3-1会議室

出席 公民館運営審議会委員(9名)

御子柴委員長、矢崎委員、戸辺委員、高橋委員、窪田委員、
降旗委員、染井委員、矢野委員、久保田委員

生涯学習課・中央公民館(3名)

栗田館長、横山係長、中村補佐

1 あいさつ

委員長の御子柴です。

この2月に公民館研究集会(以下「公研集会」という。)が終わって、3月の公民館運営審議会(以下「公運審」という。)で、公研集会の振り返りをしました。

そのときに、今期の公運審は「学習する公運審としていこう。」「2カ月に1回くらいの割合で、皆で勉強していこう。」と、欲張った課題を掲げました。

その後、このコロナの状況です。会合すること自身が少しはばかれるような状況の中で、結果的に、公運審を思うように開催することができませんでした。これは、申し訳ないと言いますか、残念だと言いますか、そういうことになってしまいます。

本日の議題は、第36回公民館研究集会です。

今回も引き続き開催していくわけですが、コロナの状況下で、いろんな工夫をして、開催をしていこうということが検討されています。

今日は、その状況についての説明を聞いたうえで、皆さんのご意見を出していただこうと思いますので、よろしくお願いします。

あいさつは以上ですが、今年度から委員となった方もいらっしゃいますので、簡単に自己紹介を行いたいと思います。

【自己紹介】

2 議事

(1) 第36回公民館研究集会

○ 御子柴委員長

議事に入ります。

今日の議事の(1) 第36回松本市公民館研究集会について、まずは事務局から一括説明をお願いします。

【説明：事務局】

○ 御子柴委員長

盛りだくさんの内容で説明をしていただきました。

この前の公運審の時に、皆さんから公研集会についていろんなご意見がありました。大方のご意見としてまとめさせていただくと、次の意見に集約できると思います。

一つは、公研集会の継続性が大事だということ。

もう一つは、集会を開けばいいということではなくて、その成果をどのように、地域の中に入れていくべきか、どうやって広げていくか、そのためにできる工夫をされたいということ。

私は、公研集会の幹事として、このことを、幹事会に伝えて、幹事会で検討しているところです。

公研集会の継続性という点については、今年も分科会テーマを募集したところ、昨年度から継続しているテーマが幾つか、新しいものでも、これまでの集会からつながっているテーマが幾つかあります。

それともう一つ、どうやってその実践を広げていくかという部分は、まだまだこれからの課題だと思いますが、実行委員からは、それぞれの分科会がそういう方向で開いていきたいということは確認されているところです。

そこで、皆さんからご意見なり、感想なりございましたら、気軽に話をさせていただきたいと思います。

○ 降旗委員

私は3年目です。

前回の公研集会から活動が生まれて、動いてきているものがあります。

清水小学校の総合学習の中で、6月から子どもたちが地域に飛び出して、フィールドワークの調べをしています。私もそこに関わっていますが、子どもたちは地域に関わることで変わっていきます。実は今日もありましたが、子どもたちは生き生きとしてフィールドワークをしていました。

ここに関わって分かったことは、地域を調べるとか、地域の歴史を知るとかということを、こちらが伝えていこうとするよりも、こちらがきっかけや仕組みを作れば、子どもたちが自分で学んでいくということです。

さらに、こうしたことは、前回の公研集会の分科会が活きているものだと思いますので、やはり公研集会を継続することによって、いいものが波及しているのだと感じています。

そこまで持つていくことがすごく大変ですが・・・。

今年の公研集会も、いろんなテーマが出ていますので、コロナがある中、本当に積

極的に、ズームでも、何でもやって、開催できればと思います。人とのつながりが切れてしまうと、本当にもったいないと思っています。

○ 久保田委員

私は、ここ何年か、公研集会に参加させていただいています。

何年か関わっている分科会は、あまり地域に戻っていかないものが多かったなと思います。降旗委員さんの発言を聞いてすごいなと感じたところです。

いつも秋くらいに、実行委員会がありますが、今年度は、コロナということもあって、やらないのかなとも思っていました。ついこの間、11月の初めに、主事さんに、「公研集会は？」って聞いたところ、「チラシはまだですが、これまでの参加者やテーマの提案者に声をかけて、少しずつ立ち上がってはいます」とのことでした。私も縁あって、分科会に入ったところです。

分科会の一覧を見ると、8の「多世代で戦争と平和について、語り継ぎ、考える」があって、子どもたちも一緒に、多世代で戦争と平和について考えるとなっています。コロナ禍で子どもたちの参加が難しい面もあるとは思いますが、早めにチラシを配布して、関心のある子どもたちに呼びかければ、降旗委員さんも発言していた通り、子どもたちは、どんどん新しい案を出して、どんどん活動していくことにつながっていますので、ぜひよろしくをお願いします。

○ 窪田委員

私は、今まで公研集会は、何回か出て、分科会にも参加してきました。

今回は、7「コロナ禍でのみんなの居場所である町内公民館の取組み」の運営委員に参加しています。

町内公民館の現状を申しあげると、今コロナ禍で、町内公民館活動自体が低迷しているのが実情です。町内公民館長会の三役会では、何とか企画をして、いろいろな取組みをやってみようじゃないかと計画しましたが、ほとんどが頓挫してしまっています。市町内公民館長会理事の研修会も、いつもだとバスで伊那とかに行って、いろいろな地域の公民館活動の研修をしていますが、今回はそれができない状況です。

そこで、今年は、市内での研修会に切り替えました。オレンジカフェという、認知症の高齢者をサポートする取組みが結構ありまして、城北地区にも「カフェすいれん」というものが立ち上がり、約2年経過しています。今年の理事研修会は、この活動を研修することにしました。

この活動は、城北公民館ではなくて、白金町の町内公民館と沢村の町内公民館で、月に1回ずつ、第2火曜日、第4火曜日にやっています。

今回の研修では、カフェすいれんの立ち上げから現在までのプロセスについて、スライドを見ながら、説明した後、ディスカッション方式でやろうじゃないか、と計画しています。

そして、市町内公民館理事会では、コロナの中で町会や公民館がどのような実践をしているのか、各理事さんに発表していただく予定です。

今回の公研集会の7のテーマが、「コロナ禍でのみんなの居場所である町内公民館の取組み」ということで、皆さんにいろいろやってもらおうと、話を進めているところです。

○ 御子柴委員長

ありがとうございます。

本当に私の町内公民館もそうですが、何も活動ができない。

それでも、数地区はなんとか頑張っている、何とかやっているというところがあると、こういう話も非常に大事なことじゃないかと思います。

○ 高橋委員

先ほどの分科会テーマの7「コロナ禍でのみんなの居場所である町内公民館の取組み」は、どこの地区でも頭の痛い問題だと思います。

コロナ禍、みんなの居場所である町内公民館でどう動いていくかという話題から、大きな輪にして、分科会での話し合いが出来たらいいなと思います。

今年は、コロナ禍で、あんまりまとまらないと思うし、参加者も出て来れないと思います。

こんなときに、コロナ禍でのみんなの居場所の公民館を、どんなふうに進めるか、こんなことをやったら、たぶん皆さんには響くと思います。

○ 矢崎委員

清水小学校の矢崎です。

学校関係は、4月9日からいきなり休業で、全校が登校し始めたのが6月の後半でした。

そんな中で、2カ月半あまり、何も勉強しなかったのかというと、そうではなくて、できることを面々と続けてきました。

本年度から小学校が新学習指導要領を完全実施、中学校は来年からですが、その中で、一番大事にされているのが、自ら学び、問題を解決していく力です。

そこで、私はこのコロナ禍で、学校の先生が子どもに教えることができない状況を逆手に取って、勉強は教えられてやるものではなくて、自らやっていくという姿勢を身につけて欲しいなと思っています。

家で教科書を進められるよう、全学年に指針を付けて課題を出して、学校に来た時には、自分で疑問に思ったことなどを出し合って、みんなで共通課題として解決することをやっています。

この中では、学びの質が転換できる、これまでの教えてもらう授業から、自分から課題を見つけて解決していく方向に変えていこうと心がけてやってきました。

それと、夏休みの1週間を短くして、登校日に変えたこともあって、2学期からはほぼ平常の状況に追いつくようになってきました。

そういうところから何が言いたいかというと、コロナの中、あれができない、これができないということではなくて、逆に今だからできること、進められることはきっとあるだろう、ということです。

今回の公研集会ですと、会場を分けて、ズームか何かで、映像でつなぐということは、私には経験がほとんどないですし、多くの大人もやったことがないことではないかと思います。けれども、これから5Gの時代になっていくにあたり、子どもたちにとっては当たり前のことになっていくと思いますが、大多数の参加する大人にとっては、そういうことを体験することが非常に意義のあることだと思っています。

あれができないではなくて、できること、今だから、ぜひ進めたいことを取り上げてやっていくことが大事だと思っています。

○ 矢鳥委員

テーマを見ますと、地域の課題が、それぞれ網羅されていて、すごいなと思っています。

この中でテーマに関心がある分科会は、3の「ICTの活用と不登校の子どもの学びの場」です。

何週間前の市民タイムスに出ていましたが、不登校の子どもにもオンライン授業で授業日数を認めるような方向性がでていたので、オンライン授業というのは、これから重要になっていくと思います。

また、学校の児童生徒に、オンラインタブレットを配布するようなこともあるようで、だんだんそういう時代になっていくのかなと思います。

3の「ICTの活用と不登校の子どもの学びの場」の提案団体、学習支援センター実帰舎の提案のきっかけ・背景に、不登校の生徒さんに、WEBカメラやヘッドセットを揃えましたというのがあります。すごく良い取組みだなと思います。また、これから市の方針と、どうやって連携していくのかということにも関心があって、すごく聞いてみたいなと思います。

子どもたちは、ちっちゃい頃からスマホやインターネットに慣れていますが、逆に、保護者がわからない。保護者対象に、大人のためのICT講座など、教えてもらうような機会を作って、公民館活動の中でも取り入れていてもらいたいなと思います。

もう一点です。この集会のフィードバックについてです。

P T A連合会でも、講演会とか委員会をやって、面白かったねで終わって、その場に出た人はいいいのですが、次の役員に引き継ぐ時、次にどうやって生かしていくとか、広げていくという点が、長年の課題です。

P T A連合会のホームページでやったことを発信していますが、見ない人とか、知

らない人も多くいるので、せっかく良い話を聞いても、次の役員さんに引き継げないことは長年の課題です。

公民館や市に、フィードバックで何かいい案、ヒントがあればいただきたいなと思っています。

○ 矢崎委員

この活動の研究集会の成果を発表するようなホームページでありましたか？

○ 事務局（横山）

記録集を毎年作っています。

○ 矢崎委員

W e b ではないですか？

○ 事務局（横山）

W e b ではないです。

○ 矢崎委員

今のお話を聞いていて、まずは、公研集会の取組みを発表するホームページを立ち上げて、それぞれの分科会の中で活動したことを、そこに書き込めるような仕組みになっていると、各分科会がどんなふうに進んだとか、生々しい成果や課題もわかると思います。フィードバックの取組みにも繋がるのではないかと思います。

○ 矢崎委員

さらに、オンラインを活用する場合、動画を撮って、何週間か見れますみたいな形で上げてもらうなどのことをすると、参加できなかった人も見れると思います。

○ 降旗委員

それは面白いですね。

継続してやってきて、今こうなってきましたという成果や課題を自由に書き込めるものがあると面白いですね。

○ 矢崎委員

そうすると、フィードバックも明らかにできるし、この先どうしようっていうところも検討することができると思います。

○ 降旗委員

その通りです。

せっかく分科会に出た人が、地域に帰って、実行したことが見えてないのが現状。公研集会後のことも見えてくるような交流の場があるいいと思います。だから、まとめの映像なり何なりがあってもいいですが、そこへ、公研集会をもとにこういう活動をしましたみたいな自由書き込みができる交流の場があると、多分次に繋がると思います。

○ 矢野委員

これからICT化が進むと、なおさら、そういうことも検討していただいた方がいいと思います。フィードバックという面で、検討されればいいかなと思います。

○ 御子柴委員長

今後、そういうプラス、今言われたようなものを、事務局が大変だと思いますけれども、分科会の参加者の皆さんに、手伝ってもらえるものがあれば、今のご意見を生かせると思います。

○ 染井委員

今のお話、すごくいい話だと思います。

何か調べるとすぐ見ることができるので、すごい便利な世の中だと思って思います。

その一方で、人との対面は、仕事を進めるにはすごく大事だということをテレビでやっていました。

私も講演会でその場に行けば、すごく納得しますが、インターネットとかで画面を見ていても、何か心に落ちてこない、面白くないということがあります。

それから、私、沢村町会の老人会のお世話をしている者として、新しい人に広がっていかないということを感じています。何かすごく敷居が高い。1度、断ってしまったらもう行けないっていう、敷居の高さみたいなものがあります。沢村での会、また城北公民館でやっている井戸端会議みたいな会議でも、新しい人にとっては、敷居が高いのだと思います。

この公研集会も、多分初めての人にとっては、ここへ来るということが大変なことだと思います。何かきっかけで、こういう集会に来てくれる人の裾野が広がったら、いいなと思います。コロナの中だけど、新しい人が来てくれるといいなっていうふうにすごく思っています。

○ 御子柴委員長

そうですね。

公民館、敷居が高いというご意見は、たまに出てきますよね。

何とかの講座があるとか、何とかサークルが募集してるよと言っても、初めて行くというのは、そこでかなり勇気を出さないといけないということもあると思います。だからその辺は、町内公民館から、だんだんと溶け込んでいけるといいと思います。

○ 戸辺委員

今お話、対面が大事ということについてです。

私の学校では、2年生が地域探検を10月、11月にやりました。その時に、地域の有名な人のことを子どもたちが調べて、質問を公民館長さんにあらかじめ送って、回答していただく機会をいただきました。多分、行かなくても、学習はできると思いますが、その場に行って、その地域の方に直接会ってその地域の方と触れ合いながら話を聞く機会というのは、子どもたちにとってはすごく重要で、やはり生き生きしています。

I C T機器を批判するわけじゃない、否定するわけじゃないですが、やはりそれだけではない。繋がりだと思います。繋がりを変えられない。どんなにI C T機器が進んでも、大事にしていかなければいけないと思います。

この公研集会でも、ぜひ、こういう機会を大事にさせていただき、多くの方が参加できるように、コロナ禍ですので、あんまり広げることにはできないと思いますが、こういうことをやっているということを知って、参加していただく機会もだんだん広げていくようなPRも必要だなと感じました。

以上です。

○ 御子柴委員長

はい。

貴重な意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

今日は、公運審を開催して良かったと思います。

今日の意見は、まとめませんけれども、それぞれの委員さんから出された意見とか、提案を、ぜひ今後の幹事会や実行委員会、あるいは分科会の運営委員会に生かせるような形に事務局でやっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それと、それぞれの委員さんが、分科会の運営委員になっていただいて、どんな分科会を作っていくのか、そういう話の中にも加わっていただきたいと思います。これは、任意でございますが、ぜひ公研集会が有意義になるよう、今後ともご協力をお願いしたいと思います。

ちょっと時間がかかりましたけれど、議題の1号、以上です。

ありがとうございました。

(2) その他

○ 御子柴委員長

続いて、(2)のその他ですが、資料の中に、新聞のコピーが二つあります。

一つは、市民タイムスの記事です。

これは松本市の公民館の実力を、こういう形で、市民タイムスが取り上げています。「学びの場、参加率、全国上位」ということで、松本の公民館活動は、いろんな分野

でいろいろ力持っていて、それが、こういう結果になったというものです。

二つ目の記事、信濃毎日新聞のものです。

これは、もっと大事ですね。

市長の考え方です。9月議会の一般質問の新聞の記事です。

一元的な組織体制に変更をしていく。

地域づくりセンターの中心として一元的な組織体制にする考え方を明らかに。

各地区で地域づくりセンターと公民館・福祉ひろばがあり、縦割りとなっている現状を打開するねらい。

住民自治を支える拠点施設の機能を強化し、地域課題の解決に取り組む。

センター長を中心とした一元的な組織体制をつくることで、各地域が自律的に住民自治を行える体制づくりに一歩近づけると説明。

権限と予算を充実、強化した地域拠点のモデルをつくり、段階的に増やしていく

と書かれています。

公研集会の11のテーマは、「地域づくりセンター、公民館、福祉ひろばの組織の一元化」です。この分科会テーマのきっかけ・背景が、9月議会の市長発言「地域づくりセンター、公民館、福祉ひろばの縦割りを打開するため、センター長を中心とした一元的な組織体制にする」という趣旨の発言があり、今後の行政組織のあり方について、市民を交えて話し合いたい、というものです。

まだまだ具体的にどう考えているかわからないところもあるものですから、公民館どうなっちゃうの、ということで心配をされている市民の方は、結構いると思います。

そこで、今市役所の中ではどんな話がされているのかについて、中央公民館長からお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

【栗田館長：別紙資料の説明】

○ 御子柴委員長

ありがとうございました。

今の説明をお聞きになって、皆さん、どんなふうに思いますかね。

○ 窪田委員

城北地区には、住みよいまちづくり協議会という組織がありまして、地域づくりセンターができたときに、健康、安全、それから福祉の3部会を設置しました。センター長を中心に、この3部会で活動しています。3部会のメンバーには、町会長、公民館長、健康づくり推進員、民生、そういう人たちが入って、活動しています。

それからひろばの方は、町内公民館長会の中から、ひろば委員という形で、そこに

参画をして、年間計画を立てて、活動しています。

城北地区は、比較的うまくいっていると思っています。

○ 降旗委員

今の説明の中で、「センター長の権限・財源から、住民自治力を強化されるだろうか」という話がありました。

私は、第三地区地域づくりセンターができたときに関わっていますが、センターが中心になってないといけないと思います。

センター長も、公民館長も頻繁に変わります。変わったとしても、地域づくりは、1年や2年で完結するものではないので、ずっと続けて理解をしている人がいないと、続いていきません。10年や20年続けないと、いろんなことができ上がっていかないと思います。ましてや、ずっといいことをやってきても、そのメンバーが変わって、役員も変わってしまっ、止まってしまうと、それでは本当の地域づくりにならないと思います。

やはり、地域づくりの一番の問題点は、そこだと思っています。

私のいる第三地区まちづくり協議会について申し上げますと、役員さんで全部構成されているわけではなくて、役員でない人も入っています。PTAも入っています。いろんな人たちが、コロコロと変わっているところもあるし、この10年ずっと同じ人がやっているところもあります。

今年、センター長も公民館長主事も入れ替わりましたが、入れ替わっても、その人たち（ずっとやっている人たち）が残っているから、ちゃんと引き継ぎ伝わっていきます。その仕組みが、地域づくりには一番大事なのだろうなと思っています。

また、センター長が着任されたときに、右も左もわからない中で全部の統括ができるかという、ちょっと難しいと思います。その辺は、地域づくりセンター・福祉ひろば・公民館の連携がすごく大事だと思います。どこが上で、どこが下ってということではないと感じています。

みんな同じ位置に立ちながら、地域の住民のために考えていく組織になっていけば、たぶん、地域づくりはうまくいくと感じています。

○ 窪田委員

城北地区の事を付け加えさせていただくなら、城北地区の住みよいまちづくり協議会は、地域づくりセンターができる前からやっていました。今年は20周年です。

この20年の間で、センター長も、主事も変わる中、協議会には役員じゃない人、一般の人でも当然入ってもらって、1組織35名で、それぞれ部長さんを作って、継続してやってきました。それから、ひろばの方も、町会長や公民館長が入ったり、そして一般の人が入ったりしてやっています。先ほどのカフェすいれんにも、一般の人が結構大勢参加してやっています。高齢者で、公民館になかなか行けない方を車で送り迎えする人も、一般から募って、お願いしてやっています。こうしたこと

を、20年ぐらい前からやっている人がいて、音頭としてやってくれています。

○ 御子柴委員長

ありがとうございました。

今後、センター一元化のことは、市で検討すると思いますが、こういう結果になりました、という結果だけが、市民に伝わってくるのはぜひ、避けていただきたいと思います。

ですから、中央公民館長も、つらい立場で、出せるものと出せないものっていろいろあるのかもしれませんが、今後、そういう情報はできるだけ逐次出していただいて、市民と一緒に考えていきたいと思います。こうした市民と一緒に考えるという取組みこそが、公民館のあり方だと思います。また、この課題は、公研集会の分科会で提起されていますので、市民も一緒に考えて、一番いいあり方を、探っていくことができれば、と思います。また、公運審としても、その都度、課題として、検討していきたいと思います。

そんなことで、時間も大分、オーバーしましたので、委員会を閉じたいと思います。どうもありがとうございます。